

カワウ被害の軽減をめざして

【研究のポイント】

カワウは、かつて全国に生息していましたが、生息環境の悪化などの影響により1970年代には繁殖地が大分県沖黒島等に局在し、3000羽以下に激減しました。しかし、その後の公害規制による環境改善などで生息域が拡大し、個体数も急増しています。それに伴い、カワウが放流したアユなどを食べる漁業被害、ねぐらや繁殖地における樹木枯死や土壌流出などの植生被害等が全国的に問題となっています。本県でもカワウによる被害が深刻な問題となっており、被害軽減のための効果的な対策が求められています。

そのため、2017年度から3か年計画で、県内に年間を通して生息する居付き群を半減させるカワウ被害対策事業を実施しています。内水面チームでは、捕獲回収した個体の胃内容物調査による漁業被害や季節ごとの個体数を調べ、生息状況などの把握に努めています。



深刻な被害をもたらすため、適切な個体数管理が必要なカワウ

【研究の成果】

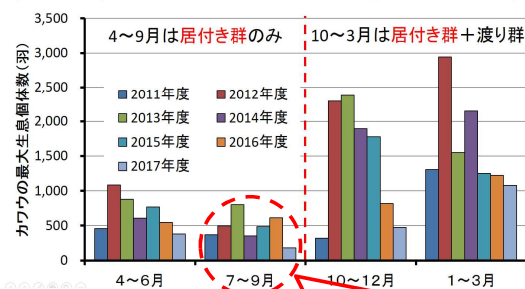
カワウの個体数調整捕獲の実績

実施が4か所・7回、捕獲が444羽

実施年	捕獲場所	実施回数	捕獲羽数
2017	黒木池_宇佐	4	266
2018	龍王池_宇佐	1	93
2018	耶馬溪ダム	1	76
2018	櫟木ダム	1	9
計			444

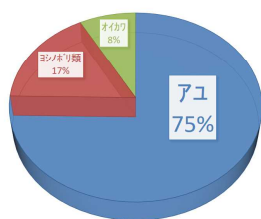
カワウの最大生息個体数の状況

居付き群の生息状況は2017年から低水準

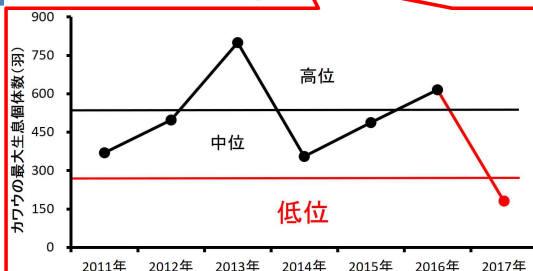


櫟木ダム捕獲カワウの胃内容物調査結果

アユが重量組成で75%



カワウが食べたアユ・オイカワ



【関係者の声】



駅館川漁業協同組合
代表理事組合長 酒井 秀明氏

駅館川漁協では、これまで県内最大の繁殖地である黒木池での巣落としやドライアイスによる繁殖抑制、ねぐらや餌場での追払いなどの対策に取り組んできましたが、カワウの被害は一向に減りませんでした。2017年からカワウ被害対策事業で実施している個体数調整捕獲後、駅館川にオイカワなどが目立って見られるようになり、事業の効果を実感しています。

【連絡先】

担当：水産研究部 浅海・内水面グループ 内水面チーム
TEL：0978-44-0329
住所：大分県宇佐市安心院町荘42